

ボランティア情報

栃木の市民活動を推進する

2013/5/15 vol. 200

■お題■

八十八夜

イラスト／菊池洋勝 ●一週間に
いづれかが通院する高齢者と重
症者にアベノミクスの恩恵は実
感ありません。万が一の時に延
命治療は要らないだの遺言の書
き方など終の会話が増えて明る
い未来も想像できません。花を
のみ待つらん人に山里の雪間の
草の春を見せばや（藤原家隆）
とはよく言ったものです。“花
冷えや古傷に軟膏を塗る。宇鷹”
webhero@hotmail.com



5/11 歩くと「人にやさしい社会になっ
ていける希望もてる」不思議イベント。
私も参加します。

寄付ハイクの魅力は、「さわやかな新緑の中、ハイキング
を楽しみながらちょっと良いことができる」ことです。ちょっ
と良いことというのは…人と人とのつながりができるところかな。

昨年の参加者からは、「人にやさしい社会になっていける希望
もてる」との声。参加者の心にこんな気持ちが育まれる催しは

なかなかないと思います！ ぜひぜひ実感してみてください。参加後には、
心も体も元気になり、なんともいえない充実感を味わえること間違いなし
です！いっしょに栃木で。（とちコミ tochiomi.prg より）

KADY 2013

- 2…ボラ時評（塚本竜也）
- 3…さろん再録 91/地域の“ふくし”を作る：まごの手・小暮悦子さん
- 4…NEWS / チャリティウォーク 56.7 実行委員会発足など
- 5…なんとなく会員向け・ボラ情報
- 6-7…一般向けボランティア情報 ● tohchigivnet.com
- 8-①…市民情報玉手箱 ●今月のFB+今月のSOS
●まけないぞうの店①
- 11…市民文庫（白崎一裕）
- 12…NPOの宝箱③はばたき（土谷友里）
- 13…一般むけボランティア情報
- 14-15…報告 / 3.11 から2年「復興の担い手の今」
- 16…フェアトレード製品のあるお店を訪ねて⑦

特定非営利活動法人
とちぎボランティア
ネットワーク
TEL/028-622-0021
FAX/028-623-6036
栃木県宇都宮市埴田 2-5-1
共生ビル 1階・3階



「新しい公共」を振り返る

塚本竜也

本会理事・運営委員 / トチギ環境未来基地代表理事



この人です。通称「たーさん」

もう一つの課題は、概念が先行してしまおうと、それがしばしば目的化してしまうことである。例えば、今回の新しい公共の中で「協働」という考え方が中心に据えられた。確かに立場を超えてみんなが集まり、考え、行動することは理想的である。

では、その後何が変わったか。たしかにいくつものNPOが強化学され、新しい事業モデルも生まれた。個々でみると、一定の成果はあったと思う。しかし、新しい価値観や新しい行動様式を生み出し、社会の中に定着させるほどの強い動きにはならなかった。やはり、行政の事業であり、年度という限界があった。

抽象的な「協働」よりも、社会課題解決方法の提示とNPOのプロデュース能力強化が必要だ。

しかし、より重要なのは中身である。いま社会が抱える課題や身の回りにおける具体的な問題はこれであり、みんなで力をあわせて解決しよう、という「これを解決する」が求心力となり人や組織が力を合わせるということが重要であるはずであるが、会議に様々な人が参加していることが重視されたりしてしまおう。あるいは、それで満足してしまおう。概念や手法を重視するがゆえにそんな風潮が生まれてしまったのではないか。

少し前になるが、民主党政権、鳩山首相が誕生した時、その就任演説の中で「新しい公共」という言葉が使われた。その後、それがいかなる考えであるかが「新しい公共宣言」として示された。いわく、「新しい公共」が作り出す社会は「支え合いと活気がある社会」である。すべての人に居場所と出番があり、みなが人に役立つ喜びを大切にする社会であるとともに、その中から、さまざまな新しいサービス市場が

興り、活発な経済活動が展開され、その果実が社会に適正に戻ってくる事で、人々の生活が潤うという、よい循環の中で発展する社会である、と。そして、日本の社会は歴史的にも市民が公共を担ってきた。いま再びその気概をみんなが持つとうと呼びかけた。

かなりその後の展開に期待をした。新しい公共を推進していくための事業も予算化された。これも画期的であった。NPOを強化するための事業、新たな公の担い手を育成するための事業、担い手たちが協力して課題に取り組む仕組みをつくった事業、たくさん事業が全国で展開された。

そして、枠組みが示されたがゆえに本質的なことに議論が向かなかったことも大きな課題であったのではないだろうか。ボランティア活動やNPOの黎明期には、いまよりも活発な議論があったように思う。ボランティア活動とは何か、NPOは社会の中でどのような役割を担っていくのか、有償ボランティアはボランティア活動なのか?など、自分自身の経験を振り返ってもそのころの熱量を思い出すことができる。その熱量が新しい動きをつくった。今回、新しい公共とは何かという問いが議論されることはほとんどなかった。

新しい公共を振り返ると、NPOとして、あるいは自分自身としても大きな反省が残る。やはり新しい公共の流れにおいてもNPOとしての原点を強化するものを重視すべきであった。つまり、社会の中で困っていること、問題となっていていることを人々に伝え、でもこうすればよくなる、解決できるといふ方法を見出し、形にし、だからみんな力を合わせようというメッセージを発信し、行動を引き出す機会を作り出す力、そのものを高める事業に注力すべきであった。NPOは「困っている」の代弁者であり、ボランティアという希望を紡ぐプロデューサーであるのだから。



まごの手は平成13年にはじめました。福祉系大学を卒業後、養護施設、特養、肢体不自由児施設に勤めましたが、ずっと「何か違うな」と感じていました。子どもや年寄などの当事者の立場に立っている福祉現場ではない。これは違うという思いが自分の中であったのです。

一瞬一瞬がその人との勝負。“対”なので充実していた。

結婚し、子供が生まれ退職しました。子育てをするときに「実家の親のような手助けがあったらなー」と思いました。「生活しているこの時間、時間で、手助けしていけたらどうかな」と。例えば、重度の身体障害児を抱えたお母さん。デイサービス以外ではなかなか見てもえません。食べさせ方だって難しいし…。「何か手伝いできないかな。地味に、ちょこちょここと…」と思いました。

介護保険が平成12年にはじまりました。が、介護保険のヘルパーでできないことがたくさんあります。草取り、大掃除、(電燈の)笠掃除・・・みな保険外です。

そこで“まごの手”を始めたんです。いままでの経験(子ども、高齢者、身体障害)を全部使えるし。やってみて以前の職場のストレスは全然なかった。外に出て1時間、2時間「やってほしい」ということに応えるということは“対”なので、「ありがとう」と言われると充実していた。一瞬一瞬がその人との“勝負”。

2、3年間、50人位の当事者支援をやり、そのなかで通院、買い物なども増えてきた。移送サービスも許可制になり法人格が必要でNPOを取りました。立ち上げの仲間は私を含め3人。「デスクワークは避けたい」と思っ

介護保険外の地域の“ふくじ”サービス

…仮認定 NPO 法人まごの手の10年

▼安心して暮らせる地域社会づくりには「困った時はお互いさま」の気持ちで支え合う“地域住民の助け合い”が必要と確信している、という小暮悦子(まごの手 代表)さん。
▼公的福祉制度が改正されるなか「助け合い・支え合い」の精神を大切に、制度外の在宅福祉サービス(ヘルパーさんのできない、柔軟かつ迅速なサービス)や、移送サービス、地域の居場所づくりなどを行っている「まごの手」の活動をお聞きした。(書き手●矢野正広)

ていました。NPO=ストレス、「公」になっていく怖さがありました。「ステップアップするのは不安はあるが、学ぶものもある」と思ったのは2、3年後ですね。

自由に動けること。「人の暮らしは制度外」ですから。

制度外(介護保険外サービス)だけでやっていくことに迷いもありました。経済的に。でも「自由に動けること」を取りました。制度は枠の中、でも人のくらしは枠外ですね。最近の事例では「85歳独居男性、膝を痛め、動くことが大変。食事は弁当、掃除もできずギブアップ」。地域包括支援センターからまごの手にきました。これも枠外です。ちなみにケママネージャーからの依頼が90%です。

移送・制度外の他に、子ども・年寄・障害者など、世代を超えた居場所「たんとんとん」をやっています。活動のなかで、誰かと話せる場、あったかいごはんを一緒に食べられる場所がほしくなりました。「まごの手さんに貸したい」と借家の申し出があり、3年準備してきました。様々な人が利用しています。末期がんで、親、つれあい、子どもがなく、通院の付き添いができない人もいました。こういった場合、病院付添いというのは精神的にきつい中身ですが、家族のような気持ちでやっています。つまり、まごの手は「制度と制度の隙間と同時に、家族と本人との隙間を埋める存在」でもあるんです。

「誰かが人を大事にしている姿を見せろ」。地域の人の助け合いが原点。まごの手の利用料などお話しします。会員制で活動メンバーは26人。利用者は168人。家事援助・1時間=1200円、身体介助・1400円、ここから会の維持費(約3割)を出します。月60~70件の依頼で、うち90%は通院・外出等の送迎サービス。残りは家事支援と買い物支援。外出支援は活動メンバーの車を登録して運行します。平均月70万の事業高です。「福祉の何でも屋」ですね。これからは高齢者の困窮者が増えるでしょう。金と人がネックですね。まごの手の運営のポイントは「会員の研修」です。そしてNPOの役割は「人を大事にする社会を作る」こと。そのためには「誰かが大事にしている姿を見せていくこと」だと思います。そして家政婦と間違われないように、6時以降はやらない。会員の助け合いの会で「自分はずぶねないように」と言っています。



「誰かが人を大事にしている姿を見せろ」。地域の人の助け合いが原点。

まごの手の利用料などお話しします。会員制で活動メンバーは26人。利用者は168人。家事援助・1時間=1200円、身体介助・1400円、ここから会の維持費(約3割)を出します。月60~70件の依頼で、うち90%は通院・外出等の送迎サービス。残りは家事支援と買い物支援。外出支援は活動メンバーの車を登録して運行します。平均月70万の事業高です。「福祉の何でも屋」ですね。

これからは高齢者の困窮者が増えるでしょう。金と人がネックですね。まごの手の運営のポイントは「会員の研修」です。そしてNPOの役割は「人を大事にする社会を作る」こと。そのためには「誰かが大事にしている姿を見せていくこと」だと思います。そして家政婦と間違われないように、6時以降はやらない。会員の助け合いの会で「自分はずぶねないように」と言っています。

まごの手の運営のポイントは「会員の研修」です。そしてNPOの役割は「人を大事にする社会を作る」こと。そのためには「誰かが大事にしている姿を見せていくこと」だと思います。そして家政婦と間違われないように、6時以降はやらない。会員の助け合いの会で「自分はずぶねないように」と言っています。

まごの手の運営のポイントは「会員の研修」です。そしてNPOの役割は「人を大事にする社会を作る」こと。そのためには「誰かが大事にしている姿を見せていくこと」だと思います。そして家政婦と間違われないように、6時以降はやらない。会員の助け合いの会で「自分はずぶねないように」と言っています。

チャリティーウォーク56.7 実行委員会がスタート (2013/4/13)

フードバンクで善意でいただいた食品が人の窮地を助けたり福祉施設等に役に立つということは、この事業は長く続けて行かなければならないことを強く感じます。

しかし、この活動を続けていくには運営資金を集めることが必要で、寄付金をいただいて運営するのが理想です。

「自分たちで作るセイフティ・ネット」としてフードバンクが成り立たないとダメだと思っからです。補助金や委託金は行政の財政がなくなればすぐに切られて(削減されて)しまいます。

寄付金を集める方法として、参加する人が楽



しんで、さらに人のためになったら理想的だと思いませんか。

そこでファンドレイジング(資金調達)イベントを今年の秋に実施することになりました。すでに4月13日と4月27日に実行委員会を実施しています。

イベント名は、「チャリティーウォーク56.7」11月9・10日に実施予定です。「送り出しウォーク5」と名付けられたお気楽なコース(二荒山神社から仏舎利塔まで、5km位)と、「チャリティーウォーク56.7」という長距離コース(宇都宮から日光中禅寺湖・中宮祠の大鳥居までの56.7kmを1泊2日で歩く)のコースがあります。詳細は実行委員会でも順次決定していきます。楽しんでこのイベントを成功させていきたいと思っています。

興味のある方は実行委員会に参加してみたいかがでしょうか。そして、当日活躍してくれるボランティアも合わせて募集しています。

・次回実行委員会は5/18・16:00～
・近く特設ホームページも開設予定
フードバンクで作る助け合いの輪にあなとも入ってみてはいかがでしょうか。(徳山篤)

NEWS NPO法人会計基準・実践講座 (2013/4/6) ◆会計ソフト「会計王 NPO」も一割引きで販売中!!

とちぎVネットはNPO支援センターでもあるので、真面目な固い講座もやります。今回は会計ソフト会社のソリマチ様との共催。Vネットの税理士の野沢さんと、協働デザインリーグの税理士の古口さんに具体的なNPO法人の会計事情に合わせて、質疑応答つきの講義を実施。その後ソリマチのソフト「会計王 NPO法人」のデモも実施。参加25人。みなさんなんとかものにしようと思ってくれました。

NPO法人会計基準はこれからNPOの会

計方式の標準になるでしょう。面白いのがNPO特有の取引が表現できること。例えばボランティアに手伝ってもらったことを「労働力の寄付」とみなして、時間数を賃金と換算し即時使ったことにして算入できます。Vネットももう導入していて、昨年は約3000万円の「ボランティアによる役務の提供」の寄付がありました。

会計ソフトもVネットで買うと1割引きです



(栃木県内ではVネットだけ)。NPO法人会計基準のソフトは(いまのところ)ここしか出していないので、NPO関係のみなさん本会からご購入を。(やの)

NEWS 会員の集い・東北地区版 (2013/4/20) ◆次は県央・6/2 会員総会で実施

4月20日(土)に会員の集い・東北地区版を大田原の国際医療福祉大学構内「風花苑・ボランティアセンター」で行いました。

昔からなじみのある人や初めて来てくれた方、そして理事長や事務局総勢20のにぎやかな参加となりました。

内容はお昼(お弁当)を食べながら参加者自己紹介、「コーヒーサロン県北版」では栃木ダルク(団体会員)の栃原さんによる薬物やアルコールに依存症者の実態の話です。多くの人が「依存症は意志が弱いとかだらしがない」といわれることが多いですが、きちんとした心の病

気と認識することがとても重要な事だと思いました。

その後、フードバンク大田原支部の紹介や各種活動の紹介そして、参加者同士の会話で親睦を深めました。4時間という時間でしたがあっという間でした。

肝心な「ボラ活動の活性化や、会員間の助け合い、事務局からのボラのお願ひ…」がほとんどなく、改善点もあったかと思ひます。



今回は県央地区対象に6月2日(日)の「会員総会」で会員の集いを行います。皆さん参加を(徳山・やの)

6/2 とちぎVネット 会員総会

★賛助会員も参加できます。

★映画・講演会・交流会もあります。

「会員の集い・県央」を兼ねます。

★みんな集まれ!

とちぎボランティアネットワーク

電話 028-622-0021

●6月2日(日)13:00~16:30、とちぎ男女共同参画センター「パルティエ」で

●内容/◆第1部:会員総会(13:00-14:30、支持会員・団体会員のみ、賛助会員はオブザーバー参加も可)と同時進行で映画上映をします。映画は賛助会員・一般の方。映画『逃げ遅れた人々-東日本大震災と障害者』(13:00-14:20)

◆第2部:特別コーヒースタイル14:30-15:10「地域のSOSになんでも応える」講師・朝比奈ミカさん(千葉県・中核地域生活支援センターがじゅまるセンター長)。支持・団体・賛助会員すべてOK。一般の方も、夫・妻など連れあいの方や息子・娘、お友達など会員の皆さんの知り合いの方をお誘いください) サロン終了後、皆さんでお茶をしながら交流会をします。

あなたの空いている時間を少しだけ

分けていただけませんか?

3時間だけ一緒に暮らす

「お友達ボラ」求む!!

箱石充子(Vネット会員)

電話 028-622-0021 (Vネット・菊池)

●私は重度の脳性マヒです。これまでボランティア、ヘルパーといった多くの手助けを借りながら生活してきました。今ボランティア、ヘルパーが足りなくて困っています。あなたの空いている時間を少しだけわけていただけませんか?趣味は旅行、映画鑑賞、お花を育てること、おいしいものを食べることでよく笑うことです。性格はあまりよくよくしない典型的なO型です。食事は全部自分本人で決めて作り方を説明します。こんな私のお友達になってください。介護などの特別な技術は必要ありません。来ていただけるようでしたらお会いして説明させていただいて、より多くの方とお会いできればと思っています。女性の方よろしくお願ひします。

●●●
報告します!:前回のボラ情報誌で掲載しましたところ、何と嬉しいことに会員の方から、問い合わせがありました。ボラン

Volunteer Jyoho

会員・一般向け
コーディネイト付き
ボランティア情報

5-7月

ティア希望者と充子さん宅へお邪魔しお茶しながら、お見合いみたいに相手のことを知ってもらい、お互いのスケジュールなど話したいということになりました。

余談ですが、ヘルパーでなくても、充子さんの買い物や遊びにも一緒に行ってくださいるボランティアも募集しています。

実は箱石充子さん念願の北海道旅行も企画中でして、6月に3泊4日でヘルパーなしのサバイバル旅行です。こんな恐ろしい企画は、実は本人(充子さん)の希望なのです。参加者は本人の他に4人が決まり、後は行くだけです。またサバイバル旅行記の報告をさせていただきます。(キクチ)

6/4-13 フードドライブ 家庭にある食品をご寄贈ください。

とちぎVネット「フードバンク宇都宮」

電話 028-643-1791(FB専用)

●フードバンクに困窮者の支援要請がますます増えています。各家庭から寄付される食品は、個人の方に食品を提供するにはとてもありがたいものになっています。助け合いの輪を広げるためにも家庭や職場からの食品の寄付、フードドライブを実施しますのでご協力お願ひ致します。

●期間/6月4日(火)~6月13日(木)ただし日・月曜日は休日です。

●受付時間/10:00から19:00まで(Vネット事務所のみ)

●ご寄付いただきたい食品/穀類(麺類、小麦等)保存食品(缶詰、瓶詰等)、インスタント食品、レトルト食品、調味料各種、飲料(ジュース、コーヒー、紅茶等)、ふりかけ、お茶漬、のり、ギフトパック(お歳暮、お中元等)

●注意していただきたい点/賞味期間が明記されているもの・賞味期限が1か月以上あるもの・未開封であるもの・破損して中身が出ていないもの

●集荷場所/①県北方面:080-2339-6769(菊池)要連絡。電話打ち合わせを行い引き渡し方法を案内します。

②Vネット事務所:028-643-1791(徳山)宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル1階。受付時間内は連絡なしで持ち込み可能。

③真岡集荷所:0285-81-5522(コラボーレもおか・土崎、加藤まで)要連絡。真岡市田町2560-4(そらまめ食堂)

●メールによる問合せ:tvnfoodbank@gmail.com

フードバンク・ボランティア情報

電話028-643-1791(徳山まで)

定期的な活動 【ホームレス夜回り】

◎5月1、8、15、22、29日

◎6月5、12、19、26日

基本的に毎週水曜日 21:00 から 23:00 にかけて行います。

【フードバンク食品整理・配達ボラ募集】

食品の整理や配達するボランティアを募集しています。あらかじめ連絡をいただければ、作業の調整をいたします。

Volunteer Jyoho

一般向け
ボランティア情報

5 - 7 月

6/19 映画「逃げ遅れる人々ー東日本大震災と障害者」& 講演「地域の中で、繋がって生きる」/ 宇都宮

自立生活センターとちぎ

電話 028-638-2538

●マスメディアでは断片的にしか取り上げられない、被災地の障害者を取り巻くさまざまな課題や問題点が浮かび上がる。講演会では、宮城県石巻在住の小林さん（障害児の母）より、想像を絶する大震災を経験した小林さんの生の声を聞くことを通し

て、障害のある人となない人が共に生きていくことについて考えてみたいと思います。

●6月19日（水）13-15時45分（開場12:30）、とちぎ福祉プラザ・多目的ホール

●チケット1000円、●定員：200人。できるだけ事前のお申し込みを。当日参加もOK

6/12、26 まちづくり はじめの一歩 / 鹿沼

かぬま市民活動広場ふらっと

電話 0289-60-2212

●第1回「協働とは」実践活動の話をお聞き。◆6月12日（水）10-12時、まちなか交流プラザ2階で。◎「協働について…栃木県の協働とは(DVD)視聴」◎実践者発表/こどものまちミニかぬま実行委員会（宮園幸雄さん、御地合直美さん）

●第2回「まちづくりは〇〇から」助成金を受けるコツを学ぶ ◆6/26(水)10-12時、

まちなか交流プラザ2階 ◎助成金を提供している財団に実際の書式を使って説明を聞く。助成金を活かす方法を考える。助成金のコツを学ぶ。

●定員20人、6/10までにふらっとまで申込

7/7 熱気球ふれあい in 高根沢、ボラ募集 / 熱気球ふれあい事業実行委員会

電話 028-675-2163 (すまいる)

http://www.ne.jp/asahi/with.balloon/enjoy

●自閉症などの発達障害や知的障害のあるお子様がいらっしゃるご家族が、ボランティアと一緒に熱気球の乗ることを通じてふれあいを楽しむ活動です。障害のあるお子さんと一緒に過ごすことで、ボランティアが自然に障害をもつ人への理解を深めていくことを目的にしています。

●7月7日（日）7-14時半、高根沢町町民

を持っていたことが縁でした。

キャンパチの初期はテント暮らしで、雨漏り、カエル侵入・・・とたいへんでした。6月10日位からCAM8(camp八)ができ、よかった一となったのでした。

ここでは、栃木のボラはもちろん、震つなROADの足湯隊が2回泊り、首都圏方面、奈良、九州・大分からも何度も来た人もいました。地元団体も集う場所で、時には地魚の差し入れが届きました。多くの方が被災地への思いを持って足を運び、活動された拠点であったキャンパチ。地元十三区の夏祭りや植樹イベントで餃子を焼いたり…様々な方との交流がうまれました。キャンパチはなくなりましたが、一関や気仙沼の方々との交流は続きますよ～(あお)

4月に大雪！ 足湯で体ホッカホカ 石巻

【活動日記】

4/21(日)季節外れの大雪に見舞われた今回の足湯ボラは会員8人でした。さらに東北道は事故で通行止め！ どうしたものか…と不安ながらも、安野ボラ(元トラック運転手)の運転で雪が降りしきる中を北上し、なんとか石巻にたどりつきました。牡蠣

広場・トレーニングセンターで実施。参加者とともに熱気球搭乗ができます。

●ボランティア活動内容/参加家族の交流サポート、熱気球搭乗体験のサポート、ミニ気球作り等のサポート

●ボランティアの締切/6月25日(火)

●ボランティア事前説明会/理解を深めるために、特に初めての方は事前説明会への参加をお勧めします。◆6/30(日)9時半-11時半、高根沢町町民広場内・改善センターで(宝積寺駅からの送迎あり)◆内容:自閉症等発達障害・知的障害について、ボランティア活動について。

●連絡/できるだけメールかFaxで申し込みを。with.balloon@enjoy.email.ne.jp

助成金情報

「Panasonic NPO サポートファンド」

http://panasonic.co.jp/citizenship/pnsf/

●助成テーマ/客観的な視点を取り入れた

組織基盤の強化。

NPO/NGOがより戦略的に社会課題を解決出来るよう組織基盤の強化をはかるには、多様で客観的な視点を取り入れて組織を見直し、自己変革を行う事が重要です。本ファンドでは、国内で先進的な取り組みを展開するNPOや新興国・途上国で活動するNGOが、第三者の多様で客観的な支援を取り入れて実施する組織運営上の課題解決のための取り組みを応援します。

●助成対象団体/①環境問題に取り組み、強い市民社会の創造を目指すNPO/NGO

②子どもたちの健やかな育ちを応援する新しい社会の創造を目指し、先駆的な活動と自己変革に挑戦するNPO/NGO。

・団体設立から3年以上であること ・有給常勤スタッフが1名以上であること ・日本国内に事務所があること ※財政規模1000万円以上の団体を想定していますが、要件ではありません。

●助成対象事業/第三者の多様で客観的な視点を取り入れた組織基盤強化の一連の取

行ってみての感想：若林哲夫さん（鹿沼）●Vネットの会員になって初めてのボランティア参加でした。いままで重油回収など何度か声をかけて頂いていたが、今回が初参加。朝早くの集合など、継続して参加されている方々がいるようで、頭が下がります。被災地に入って驚いたことは、仮設住宅の多さでした。新聞等には載っていたはずだが、自分自身が関心がなかったからか、これほど仮設住宅が多いとは知らなかった。被災地に行きたくて、被災地にはなかなか行けないけれど、被災地の商品を取り寄せる等、買い物で応援して行きたい。

でお世話になっている尾崎地区の人が住む三反走団地仮設。午前中に到着して尾崎で震災時の様子を聞いてから足湯と思ってましたが、雪で遅れ、大川小学校だけ見てきました。

着いたころに雪は雨に変わり、湯沸かしの準備もスムーズにでき、足湯開始。今回はVネット会員のマッサージ師、加藤さん、石渡さんの2人が参加しています。足湯で暖まった後にマッサージという流れで、皆さん”ほっと”されお茶を飲んで帰られました。お客さんは30～60代の15人。壬生からもボランティアが定期的に来ている話も伺いました。



いくつかの地区の人が生活するこの仮設は自治会長を中心に皆さん”まとまっている”アットホームな雰囲気。参加した足湯ボラからは、1回だけでなくまた来たいよね～という有り難い声もありました。「震災から2年もたつとボランティアも少なくなっているのに、ありがとだね!」という声も頂きました。

尾崎地区や長面地区は、地盤沈下により危険区域で住むことができません。道の駅(上品の郷)の近くに集団移転が決まり、また、6mもの堤防も作られ、漁業を続けている人にとっては海が見えない状況になりつつあるのか、思い続けることも被災者の応援になるのではないかと思います。(あお)

タオル提供のお願い ～まけないぞう

NEWS・活動日記・ボラ募集

1月にも“まけないぞう”のタオル募集の記事を出させていただきました。お陰様で、コープさんやキャラバンを開催した東京三鷹からなど、団体さんや個人の方、帰途途中で会社で集めたので…と持参してくれたりと集まってきました。皆さま、大変ありが

り組みを最長3年まで応援します。

以下の【1】と【2】の連続した取り組み、または【2】のみの取り組みでの応募が可能です。

【1】課題抽出・課題解決策立案フェーズ/第三者による組織診断を実施した後、組織診断結果をふまえて、組織基盤強化の計画を策定する事業。

【2】組織基盤強化フェーズ/第三者の力を借りて組織基盤強化の計画を具体化した後、組織基盤強化の計画を実行する事業。 ※「第三者」とは、応募団体が選定するNPO支援機関やNPO経営支援の専門家等のことを指します。

●助成金額/1団体への上限200万円。 ※助成対象経費は、コンサルティング費用、事務局経費(人件費含む)、旅費交通費など組織基盤強化の取り組みに必要な経費

○助成総額は「2013年新規募集」「継続助成」あわせて、環境分野1,500万円、子ども分野1,500万円、合計3,000万円

●助成事業期間/2014年1月1日～2014年12月31日

●応募受付期間/7月16日～7月31日必着

●応募要項および応募用紙のダウンロードについて/4月22日より、パナソニックのホームページでダウンロードできます。 ※ダウンロードができない場合には裏面事務局のNPOまでE-mail、またはFAXでご連絡ください。



とうございます。しかしながら、ここにきてまた少なくなってしまいました。作り手さんに送る枚数を減らして調整させてもらっていますが、それも困難になってきています。

●●タオルを募集します●●

家に眠っている使っていないフェイスタオルがありましたら、とちぎVネットまで寄贈して下さい。タオル1枚につき10円のカンバがあるとなお嬉しいですね。会社やお仲間に声をかけて集めていただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

～こんなタオルはご遠慮下さい～

・薄すぎるもの。両サイドに会社名などが入っているもの。

被災地を応援する形は様々です。タオルを集めることもその一つです。(あお)



◀ **新聞切り抜きボラ募集**
毎週火曜日 13:30 から事務所で。現在後期高齢者1、退職したて高齢者1人でやっています。新聞3紙です（読売がない）。

『自殺実態白書』

(2013/3/24 下野)

闘病児のファッションショー

●福岡市のNPO法人「ライフサポート・アムルール」が、難病などで長期療養中の子供のファッションショーを、23日東京で開催した。花柄のドレスを着て参加した都内の女兒(4)は「お姫様みたい」と喜び、母親は「病気に負けずに頑張っているので励みになります」と話す。同法人の宗田昌子さんは「闘病中の子供もおしゃれをしようと表情が生き生きする。全国に活動を広げていきたい」と語る(2013/3/28 読売)

「絵本ワールドINとちぎ」

●絵本で読書の楽しさを知ってもらうイベント「絵本ワールドINとちぎ」が23日、宇都宮市の青年会館で開かれた。絵本のストーリー創作や海外作品の展示コーナーや、「ねずみくんのチョコッキ」の絵本作家なかえしをさんの講演があり、多くの親子連れで賑わった。読み聞かせコーナーでは読書ボランティアが「おおきなかぶ」を朗読した。(2013/3/24 下野)

心の傷メイクで癒やす

●婦人保護施設や更生保護施設などで暮らす女性たちへの美容支援が広がっている。DVの被害女性が入居する「矯風会ステップハウス」では田島みゆきさんがボランティアでメイクを教え、性暴力の被害者を支援するNPO法人「しあわせなみだ」では、ヘアサロンの練習モデル役に施設に暮らす女性を紹介するサービスを実施。資生

堂も更生保護施設などで、メイク指導を開催。外見の変化は、女性が自信を取り戻し、自己肯定感を高めるのに効果があるという。(2013/3/27 下野)

映画「足尾銅山 光と影」

●足尾町の足尾歴史館(長井一雄館長)で24日、完成したばかりのドキュメンタリー映画「足尾銅山 光と影」の試写会が開かれる。映画では銅山のお抱え写真家だった小野崎一徳氏の貴重な写真を使いながら、急成長をとげた足尾銅山の様子や、煤煙による環境破壊、田中正造の鉱毒反対運動、閉山後の緑化工事までの様子をまとめている。試写会後は歴史館で常時見られるようにする方針。(2013/3/24 下野)

匿名の善意・自転車プレゼント

●宇都宮の中央児童相談所に、匿名女性からの寄付として自転車10台が届き、県内の児童養護施設の新中学一年生にプレゼントされた。女性から児童相談所に寄付申し込みの電話があり、他の児童相談所にランドセルが寄付されたという新聞記事を読み、自転車の寄付を申し出たという。自転車には手紙が添えられ「みなさんが楽しく思い出多い中学生活が送れることを心より願っています」とつづられていた。(2013/3/27 朝日)

奨学金問題対策全国会議

●31日午後1時、東京千代田区の主婦会館で、奨学金を返せず苦しんでいる人の現状を話し合う。呼びかけは中京大の大内裕和教授や弁護士有志で、大内氏の基調講演があり「奨学金問題対策全国会議」の設立も兼ねる。問合せ東京市民法律事務所(03-3571-6051)(2013/3/29 朝日)

宇大「HANDSプロジェクト」

言葉の壁サポート

●日本語での学習が難しい外国籍の子ども

に教育支援をする宇都宮大「HANDS(ハズ)プロジェクト」がスタートして3年。教育委員会と提携して、多言語の高校進学ガイダンス、3か国語の中学教科単語帳刊行の事業を行い、学生ボランティア派遣は教育学部が協力。これらの活動は県内の教育現場で成果を上げてきており、他県からも注目されている。(2013/3/30 朝日)

「困窮世帯に届けるお米があれば…」

訪問介護事業所にも提供。

大きな出来事は3月1日から大田原市の食品倉庫が正式に決まり、フードバンク大田原支部が本格稼働となりました。とても立派な倉庫で本日も羨ましくなるほどの倉庫です。

3月5日に東京でセカンドハーベスト・ジャパンを中心に全国フードバンク交流会議が行われました。全国会議というのは今年初めてのことで、農林水産省と消費者庁の若い職員の方も会議に出席していただき、会議の中に入って意見を交換していただきました。

■食品支援とともにパソコン支援も

3月と4月は施設を中心に40施設に、清涼飲料水をメインに食品を配送しました。食事を作っていない介護事業を行っているNPOでも、訪問先の困窮している人にお米があればと声をかけていただいたので、お米を定期的に配送する事にしました。

栃木の困窮者の実情 4月のSOS

「飢え死にするしかないのかと 思っていました」

3月にフードバンク宛にSOSメールが入ってきました。収入が低く収入間際になるとお金が無くなるので、川の土手で草を取ってそれを食べてしのいでいるというメールでした。深刻な話ではありますが、名前も名乗らないしこの誰かも不明なので、確認のメールを送信するも

相馬看花一第1部 奪われた土地の記憶」上映

●東日本大震災による原発事故により、強制退去を強いられた住民の姿を追ったドキュメンタリー映画の上映会が4月27日、宇都宮市若草のとちぎ福祉プラザで開かれる。福島第一原発から20キロ圏内の南相馬市江井地区。松林要樹監督は避難所で現地の人々と共に生活、その表情と肉声を間近から撮り、原発事故で奪われた土地の記憶

へと迫る。(2013/3/31 下野)

身近な人の死・子どもの悲しみに 寄り添う

●「大切な人を亡くした子どもとその家族のつどい」が4月29日、東京都の聖路加国際病院で開かれた。6～18歳の子どものと保護者が対象でNPO法人グリーンサポートリンク(全国自死遺族総合支援センター)が主催。最近20～30代の若い世代の親の

個人の支援で、最近目立つようになってきたのは寄り添いホットラインとの連携が増えてきて、福島県からの困窮者や栃木県内の困窮者からの電話相談に食品を4件支援しました。変わった事例で

は、電話で「食品の支援をお願いします」と依頼があったので、話を聞くとパソコンについて困っているとお話がきました。ここに来ているボランティアの大泉さんがパソコンに詳しいので食品と一緒にパソコンのことも相談に乗ってしまいました。パソコンの件については今も継続で支援しています。

■秋チャリティ・ウォーク、実行委員 員&ボラ募集!

ビッグニュースは、今年の秋フードバンクの資金調達イベント「チャリティーウォーク56.7」を実施します。4月には実行委員会を2回開きました。これから具体的にっていきますので、実行委員やボランティア希望の方は、028-647-1791の徳山宛てに電話ください。



徳山篤 (FB担当職員)

自殺が増え、残された子どもが低年齢化しており、そのサポートが課題になっている。(2013/3/31 毎日)

震災から2年、現状報告

●東日本大震災からの復興の担い手の現状を紹介するイベントが31日宇都宮大学で開催された。NPO法人「とちぎボランティアネットワーク」など県内外の15の市民団体が参加。被災者と支援者が復興に向け共に活動、交流する「共同・共創」がテーマ。NPO法人「福島県有機農業ネットワーク」理事の菅野正寿さん(54)の講演と「逃げ遅れる人々ー東日本大震災と障害者」の上映や、南三陸町のワカメや会津地方の「こづゆ」の販売もあった。(2013/4/1 毎日)

被害者支援センターボラ募集

●事件や事故の被害者の遺族を支援して、電話相談や裁判所への付き添い、チラシの配布などをおこなうボランティア募集。25～60歳、支援に必要な法律や精神医学などを学ぶ2か月半の養成講座(毎週火曜、全12回)終了後に業務に当たる。問「被害者

支援センターとちぎ」028-623-6600、平日9時～17時(2013/4/9 読売)

独協医大病院のロビーコンサート

●独協医大病院のロビーで9日、4人のNHK交響楽団員による弦楽四重奏コンサートが開催された。ヴィバルディの「春」やビートルズの曲など、入院患者に癒しを提供しようと初開催したもの。N響は社会貢献活動の一環として年に10回程度全国各地で院内コンサートを実施している(2013/4/10 下野)

『障害者市民防災提言集 東日本大震災版』

●東日本大震災の被災地支援をおこなう大阪のNPO法人「ゆめ風基金」は、災害時の障害者支援の在り方や備えについてまとめ「障害者市民防災提言集 東日本大震災版」を発行した。要援護者名簿を活用するにあたって、災害時に必要となる支援や支援者を明らかにしたうえで名簿作成を行うことや、仮設住宅での障害者の外出困難を避けるための対策などを提言している。A4版80

ページ500円。問06-6324-7702 ゆめ風基金(2013/4/11 毎日)

アプリ「性暴力SOS」

●性暴力被害者支援の民間団体「Arts Japan」(アーツジャパン)は性暴力被害者への支援情報を提供するスマートフォン向け無料アプリ(ソフト)「性暴力SOS」を制作した。被害者の相談窓口、けがの治療や心のケアなどを一カ所で受けられるワンストップセンターや検査ケアを受けられる病院 保健所、被害者支援民間団体、被害の自助グループなどを紹介している。アプリはアップル社の「iPhone専用」(2013/4/12 読売)

病院に癒やしの絵画

●独協医大病院の廊下で24日まで、文星芸大の学生が描いた絵が展示されている。今回で3回目で蓮の花の日本画や油絵21点が展示され、入院患者や家族らが足を止めて見入っている。「いずれも芸術的に洗練された自信作ばかり、癒やしのきっかけにしてもらいたい」と同大油画専攻加藤忠一教

授。(2013/4/18 読売)

「相馬焼」作陶通じ避難者の親睦

●福島第一原発事故で浪江町を離れ、益子焼窯元共販センターで陶芸の指導にあたっている大堀相馬焼伝統工芸士、志賀忠吉さん(63)が19日、県内の避難者を対象にした陶芸教室を開催。教室には福島からの避

難者20人が参加し陶芸を体験。「今日は避難生活を忘れることができた、今後も交流を深めたい」と語る。(2013/4/20 下野)

おもちゃクリニック開催

●壊れたおもちゃを修理する「おもちゃクリニック」が13日、うつのみや表参道スクエア6階で開かれた。このボランティアは

2001年、物を大切にすることを養ってほしいと始まり、市の委託を受け市母子寡婦連合会が年10回実施。おもちゃドクターは30～70代の11人、この日は8組が来場しドクターの修理を見守った。次回は5月11日 問/028-616-1570(2013/04/20 下野)



『OUT(アウト)』

●桐野夏生／著

●講談社文庫／上巻667円・下巻619円(税別)

しみん文庫

評者●白崎一裕(共に生きるために)

無意味で苦痛しかない人生を人は生きることができるのか? ニーチェが生涯を賭けて追及した課題の回答の片鱗が本書にはある。しかし、作者は決してこの問いを暮らしから遊離した形而上的な問いにはしていない。物語は東京郊外にある深夜の弁当工場から始まる。この工場へパート労働に通う4人の女たちが物語の主人公である。作者は、別作品『メタボラ』でも若者を中心とする派遣労働の現場を濃密に描写していたが、本書においても弁当工場の労働現場のリアルさが際立つ。労働は社会の参加を促し自立した尊厳ある生活の基盤となる、このような労働観を信じている人もたくさんいるだろう。しかし、4人の女たちには「午前零時から朝五時半まで延々と休みなく、ベルトコンベアで運ばれる弁当を作り続けなければならない」出口のない労働現場なのだ。作品の中心人物、香取雅子には次のように述べさせている。「新青梅街道から流れてくる排気ガスに混じって、揚げ物の油臭い匂いが微かに漂っていた。これから雅子が出勤する弁当工場から来る匂いだ。『帰りたい』この匂いを嗅ぐと、この言葉が思い浮かぶ。『しかし、帰りたい場所は、彼女たちにはどこにもないのだ。『家庭崩壊』『DV(ドメスティックバイオレンス)』『高齢者介護問題』『女性差別』『貧困』等々の彼女たちを取り巻く人生の困難さが、彼女たちを、この出口のない弁

当工場にしか居場所がない存在にしていくな。弁当工場は、現代という時代の困難さをすべて凝縮・集積した象徴的存在なのだ。その主人公たちが、この出口なしの労働現場から脱出する事件に遭遇する。その事件とは「死体解体」という犯罪である。なぜ、彼女たちは、この恐るべき犯罪に手を染めることとなったのか? 作者は、その回答を作品の中で提示してない。犯罪の動機は主人公たちにも「よくわからない」のだ。しかし、この「よくわからない」こそが現代という時代を表現しているといふべきだろう。そして、この現代を生き抜く範型として作者は、香取雅子という人物を登場させている。雅子は、死体解体犯罪をリードして仲間をまとめ上げ、擁護して仕事をすすめる。彼女には、安易な希望も絶望も見出すことができない。冒頭に紹介したニーチェは、自らの無意味で苦痛しかない人生を、あらゆるものに頼ることなくその丸ごとの存在として引き受け立ち向かう人間像を提案した。雅子の存在はそれに近い。この物語の最終場面で読者は、許されない犯罪を犯したという事実を超越して、雅子の生き方から限らない勇気を与えられるだろう。「現代」というとてもない魔物に立ち向かう勇気を。

無意味で苦痛しかない人生を引きうける人間像から、「現代」というとてもない魔物に立ち向かう勇気を与えられる。



まけないぞうもいるお店も訪ねた。⑩



まけないぞうの製作・販売が始まった直後から、お店?で販売していただきました“エコ・ハウスたかねざわ”さん。紹介が遅くなりました(ゴメン)。こちらエコハウスは、元々はとちぎVネットで高根沢町から受託していた環境学習の拠点となる施設です。おととしからは「NPO法人ふるさと未来Sou」が運営、管理をおこなっています。使わなくなった物を必要な人に格安でお譲りするリサイクルショップや資源回収ステーションの設置、風力・太陽光のほか、隣の雑木林の落ち葉で遊んだり、綿栽培⇒糸繰り⇒機織り⇒藍染めとかの体験プログラムなどものすごくいろいろやっています。さらに子どもから大人までの環境学習プログラムなど、環境に配慮した暮らしができるような活動&学習を展開しています。ボク(?)は受付カウンターわきにいるぞう。

エコ・ハウスたかねざわ

■〒329-1233 栃木県塩谷郡高根沢町宝積寺2021番地15
■TEL 028-680-2080 FAX 028-675-8071 ■月曜定休、月曜祝日の時は火曜
■http://homepage3.nifty.com/ecohouse-t/

NPOの宝箱③

とちコミブログ再掲 tochicomi.org

NPO 法人 はばたき

書き手●土谷友里

(とちぎ協働デザインリーグ)
※Vネット会員です。



10か所の事業所と共同受注をし、 仕事と障がい者の働く場をつなぐ、プラットフォーム構築。 静かに広がっている「仕事を通じての社会参加」。

日光市(旧今市)の住宅街にたたずむ事業所「はばたき」は、障がい者の就労支援をはじめとする障がい者の社会参加を促進するNPO法人です。障がいを持った方がイキイキと働く場「はばたき」についてご紹介します。

■施設ではなく事業所、 利用者ではなく従業員

若いころから福祉一筋で働いてきた代表の広瀬さんは、障がい者施設に勤務していた頃、多くの障がいを持った方から「働きたい」との声を受けていました。その思いに応えるため、障がいの種別に関係なく就労にスポットをあてた支援をしたいと考えていました。2003年に、企業の事業所を間借りし、福祉の仲間20人がボランティアで活動を始めたのが「はばたき」の前身です。同年10月にNPO法人格を取得、その後、障がい者の就労支援を目的に、障害者自立支援法の就労継続支援B型事業所としてスタートしました。

障がい者が違って、働くということはみんな一緒。働ける環境を整えることで、みんなが個性を出し合い、その個性をいかしながら、楽しく働くことができます。と広瀬さんは言います。また、施設ではなく事業所、利用者ではなく従業員と話す広瀬さん。この言葉に込められた思いには、強い信念があるようです。はばたきで働く皆さんに対しても、「事業所で働く従業員と思ってほしい」と伝えているとのこと。「はばたき」で働く

皆さんの真剣に取り組む姿から、「ここは働く場」という広瀬さんの思いが浸透しているように感じます。

■障がい者の就労支援に関する プラットフォームを作る

障がい者を取り巻く就労環境は、不況による受注減等により非常に厳しく、どこの事業所でも同じ課題を抱えています。この課題解決の糸口として、2009年に就労情報センターを立ち上げ、利用者の工賃アップを目指し、新しい取組として力を入れています。同センターでは、行政・企業からの仕事の依頼と、障がい者の働きたいという思いをつなぐため、障がい者の就労に関する情報を一元化し、相談に応じています。また、行政や企業からの仕事を市内に10か所ある事業所が共同で受注できるよう、共同受注システムを構築し、その仲介を行っています。

この事業を通して、市内の事業所間の交流が生まれただけでなく、行政や企業との協力連携等、地域のネットワークが拡がり、障がい者の働く機会(社会参加)を地域全体で支えています。まさに障がい者の就労支援に関するプラットフォームを担う、地域に根ざしたはばたきの活動に今後も期待が高まります。

広瀬さんが目指す、就労を通して、障がいを持った方が社会参加できること。その思いがカタチとなり地域にひろがりつつあることを実感します。

【とちコミ運営委員のコメント】

ひとを巻き込む力と行動力が人一倍ある広瀬さん、その魅力は、一度お会いするとすぐにわかるはず。広瀬さんのまわりには自然と人が集まり、支えてくれる方が大勢いる。そんな印象を受けますが、やはり普段から人とのつながりを大事にしているからこそこのよう。そういった日々の積み重ねなど、組織運営においても大事なことをたくさん教えてください。組織運営に困ったら…広瀬さんにお会いすると解決へのヒントが見つけれられるかもしれません。



【団体について】

特定非営利活動法人 はばたき

■〒321-1272 日光市今市16-9 ■TEL/FAX0288-21-3365

■http://www.bbweb-arena.com/users/habataki/

- 1) 障がい者に対する就労に向けた作業訓練(・ドアノブ部品の組み付けと袋詰め作業・段ボール補修作業・線香の箱詰)
- 2) 障がい者に対しての就労に関する相談事業
- 3) 福祉施設に対しての作業受注に関する協力事業
- 4) 福祉関係の知識の普及 地域住民の方々を中心に、福祉関係の研修会等を行う。
- 5) 他団体との交流事業

Volunteer Jyoho

一般向け
ボランティア情報

5-7月



5/25まで 企画展「となりの花畑 いばらきから」/那珂川町

認定NPO法人もうひとつの美術館 電話0287-92-8088 那珂川町小口(旧小口小学校)

●もうひとつの美術館のある那珂川町は栃木県東端にあり、となりは茨城県。今回初めて茨城から10人のハンディキャップを持った作家とガラス・日本画・版画の3人の作家を加え、春の穏やかな光の中で、凛とした作品たちを紹介します。

●開館時間/10:00-17:00、休館/月曜日(ただし休館日が祝日の場合や団体予約の場合には開館)

●入場料/人700円 大学生500円 小中高生・70歳以上・障害者・重度の方付添300円

●活動/アウトサイダーアート(知的なハンディがある人のアート作品)専門の美術館。館長梶原さんはVネット会員です。認定NPOなので、寄付すると寄付控除があります。



6/1 サシバと里山の生きもの観察会/市貝

見て、感じて、守ろう!「サシバの里」実行委員会

電話028-622-0021(とちぎVネット・徳山)

http://savejapan-pj.net/

※webサイトからも申込OK

●サシバは、カラスくらいの大きさのタカの仲間。田んぼや雑木林にすむいろいろな小動物をエサとするため、豊かな里山の指標する生きものと言われています。そのサシバが、耕作放棄地の増加や様々な開発によって、今では絶滅危惧種になってしまいました。その希少なサシバがすむ栃木県市貝町の里山で、サシバやそれを取り巻く生態系を取戻し、維持するために「サシバの里」づくりが進められています。その活動を理解し、支援するために、自然観察会、保全活動体験会を開催します。

●6月1日(土)9:30-14:00 ●締切/5月25日、定員30人

●活動内容/午前は、市貝町谷津田保全地で、カエルや昆虫、魚など田んぼの生きものを観察。午後は、保全地周辺で草刈りなどの保全作業体験。

●開催場所と集合場所/市貝町文谷、小貝南小学校駐車場に集合。JR宇都宮駅東口より送迎バスあり(8時30分発、20人)

●持ち物/昼食、水筒、雨具の他、田んぼ周りを歩くのと保全作業用に長靴と軍手をご持参ください。

●対象/どなたでも参加できますが、小学生以下は保護者同伴でお願いします。

●雨天時/中止の場合は、5月31日の夕方までにメールもしくは電話で中止の連絡をします。代替日は翌6月2日の予定。

●実施団体/見て、感じて、守ろう「サシバと里山の仲間たち」実行委員会(NPO法人オオタカ保護基金+認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク)協働:日本NPOセンター 協賛:株式会社損害保険ジャパン、日本興亜損保株式会社

●メッセージ/市貝町は日本有数のサシバ繁殖地です。そして、サシバの舞う里山はワンダーランド。谷津田や雑木林で、遊んだり、生き物を観察したり、保全作業をしながら、一緒に楽しく「サシバの里」づくりをしましょう。

東日本大震災 ＜3.11から2年＞ 共同・共創 【復興の担い手のいま】



農民的技術によって放射能に克つことを立証。

福島県有機農業ネットワーク

講演：菅野正寿さん

(あぶくま高原遊雲の里ファーム主宰 / 福島県有機農業ネットワーク代表 / ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会特産理事)

●震災から2年。もはや被災者と支援者という関係ではなく、融合して「活動者」「復興の担い手」になってきました。地元で、栃木で、栃木と現地で、一緒に作り上げる活動と交流で生まれる希望を語り合った。(報告の一部を抜粋)

昨年11月頃に災害に関する会議が二本松で行われた。復興にむけ仲間とともに活動されている菅野さんのお話を初めて聞いた。有機農業者にとって東京電力福島第一原子力発電所事故は深刻な被害であり、生きる希望と暮らしの方途を求めた苦悩の日々だったと発言された。それから仲間とともに「土の力」「土の包容力」によって現在福島の農産物からは放射能は検出されていないことが解ったことなど聞いたとき、単なる農業者ではなく緻密な研究者の印象を受けた。そして是非お話が聞きたくて名刺交換をさせてもらった。その縁で今回3・11の交流会に呼ぶことができた。



福島からの農産物加工品を販売する菅野さん(左)

一番興味があったのが農地を耕転する方法だ。有機物が多い表面土壌を排除するやり方でなく、土づくりをはじめさまざまな農民的技術によって放射能汚染を防いでいく方向を考えたい。話はぐーっと引き付けられた。農民的技術とは「土の力」「土の包容力」を知っている有機農業者だからこそだと思った。菅野さんは「汚染された農地をより丁寧に耕転することで表面に薄く沈着された放射性セシウムは大量の土と混合される。土には放射線をかなり強く遮蔽(しゃへい)する機能があるから、地表の放射線量は耕転で大幅に低下する」と話された。昨年、大学の研究者とともに実証実験を進めたデータとともに報告された。



これから福島県以外に住む我々はどうしたらいいのか。考え行動したいと思う。『放射能に克つ能の営み』が出版されています。より深い話があります。

(文・菊池順子)

(講師資料より) ●玄米の全袋検査で99.8%が25Bq/kg以下。約1,000万袋・30kg。◎野菜はほとんどが不検出。検出限界値10Bq/kg以下。◎二本松市は12月から学校給食に検出限界未満の二本松産米と野菜・果樹の使用を決定。◎コープふくしまの調査による食事の測定結果は検出世帯はゼロ(6-11月)。◎ただし梅、栗、柿、ゆずなどは今年もセシウムが移行している。山菜、キノコも出荷制限)

⑭ とちぎVネット・ボランティア情報 vol. 200

未来像が見えない…

とちぎ暮らし応援会「県内避難者は今」 大山香さん+君嶋福芳さん

栃木県内に福島県からの避難者が約3000人避難しています。昨年「とちぎ暮らし応援会」では避難者の個別訪問を行ってきました。そこで感じるのは、避難先のコミュニティがなくて周囲に相談できる人がいない人や、いつまでこの状態が続くのか未来像が見えてこないのどうしたら良いのか苦しんでいる人が多い、ということです。

避難生活でも、徐々に元の場所に帰りたと思う人が少なくなっており、アンケートで「帰るか/帰らないか」という質問に対して「未定」と答える人が6割になり「帰りたい」と意思表示を示す人が減少しています。

避難生活を深刻にした原発の事故については、初期情報が外国のメディアと日本のメディアでは違っていて、どの情報が正しいのか、眼に見えない放射能への不安や恐怖に悩ませられた人が多いです。家族のことを考えて母子で自主避難した人は、地元からも避難先でも疎外感を感じ暮らしている人が多い。そして、その後の放射能の情報に対しても信用することができなくなっている。

時間が経つにつれて「風化」という問題も出てきて、避難当初にあった“暖かい風”が時間の経過とともに“冷たい風”になってきています。大きな課題としては、避難先の交流会に出席できない人をどう支援したらよいか、深刻な事例としては自殺の例もあります。まだまだ課題は山積みの状態です。帰還宣言が出るまでに数年かかる場所もあるので、さらに問題が複雑に、そして深刻化していきます。(文・徳山篤)



「普段から苦勞して暮らしている人は、 災害時もっと大変になっている」という事実！

自立生活センター栃木…映画『逃げ遅れる人々- 東日本大震災と障害者』を見て。

3月31日、宇都宮大学の学生ホールは熱気に満ちていた。東日本大震災から2年が過ぎ「あの日」の記憶が薄らいでいた中で行われた3.11関連イベント。全国各地で行われた一連の行事のいわば総決算だ。

会場では大震災に関連した展示や特別講演会、座談会、映画上映会などが行われていた。未だ復興の目途すらつかない被災地の現状、避難者の苦勞が伝えられ、「あの日」の衝撃がよみがえってきた。私が特に印象に残ったのはドキュメンタリー映画『逃げ遅れる人々』だった。

私たちが普段目にする震災関連ドキュメンタリーのほとんどは、いわゆる健常者の苦悩が中心である。昨日まで自分たちと同じ暮らしをしていた人々が一瞬にして、家を失い、避難所での生活を余儀なくされる。「自分たちの同じような人々」という「リアリティー」に私たちは衝撃を受ける。しかし、この映画はそれとは別の衝撃を私たちに投げかけていた。あの日、あの大地震と大津波、恐ろしい原発事故から逃れる緊急事態に遭遇したあの日、あの瞬間に、車いすが手放せない身体だっ



▼16:30位からの交流会。70人は残ったと思う。



▼交流ルームでいろんな販売&喫茶。楽しかった。

たとしたら……。

映像は身体にハンディキャップを持つ人々にスポットを当て、人々の体験を通して「あの日」の記憶、そして、現在も続く避難先での苦悩が伝えられた。特に、原発事故による放射能被災地から避難を余儀なくされた女性がインタビューの最中に見せた涙が胸をうつ。「障害を持っていてもこれまで頑張ってきたのに原発事故がすべてをうばった」と、やり場のない怒りに震えていた。

普段から不自由な生活で苦勞している人々がいる。災害はそうした人々にも否応なしにふりかかってくる。震災直後に私がボランティアに行った福島の避難所には、原発事故被災地から老人ホームごと避難してきた人がいた。災害のショックと過酷な移送が原因で数名の方々はすでに息を引き取っていた。

障害者、高齢者、子どもたち……いわゆる災害弱者への「コンパッション(共感共苦)」が復興支援のキーポイントになることをあらためて実感させられた。(文・我妻英司)



①



②



③



④



⑤



⑥

- ①映画の様子
- ②那須希望の若の大笹さん…放射線計測・除染について。
- ③とちぎ学生手仕事支援プロジェクト…復興支援商品の売店とかやりました。県内の大学生で被災地の仮設住宅等で作られる「手仕事商品」の販売。そのほか東北銘菓+喫茶セットもやり、盛況でした。
- ④十三浜・浜人+チーム鹿沼の報告

- 交流ルーム
- ⑤チーム龍 JIN…宮城・社鹿との活動を紹介。
- ⑥とちぎVネット…「まけないぞう」のお母さんおしゃべりしました。福島の仮設住宅に住む「まけないぞう」の作り手のお母さん登場。皆はまってきました。
- ・とちぎYMCA…「福島・那須の避難 子どもキャンプ」の様子を紹介しました。
- ・菅野さんが講演後に持参の福島産品「餅、会津あんぼ柿、会津ゆべし、桑の実ジャム」等販売しました。
- ・宮城十三浜からも「わかめ」の販売です。
- ・空飛ぶモニョングロ村は「チビッ子未来発電所」のプログラムのため、資源ゴミの回収してきました。
- ・苗木 for いわきの未来基地とみんぶくも講演しましたが紙面の都合で載せられませんでした。

会員・寄付者のお名前

【2/21 - 3/28 順不同・敬称略】
3月28日の会員数 661人 (2人入会 2人退会)

- 支持会員：中野謙作 小林ひとみ 伊藤嘉信 佐藤由紀子 畠山由美
- 賛助会員：倉井康夫 高井徹 広瀬浩 江連紀子 磯島宏美 松本雅史

【寄付】

- 一般：井村正治 3,000円、光琳寺 30,000円、高木敏江 10,000円、藤田由子 20,000円、永田稔 3,000円、桑久保キイ 1,000円、内間茂 1,000円、澤田弓子 1,000円、矢野美智子 1,000円、武井 大 1,000円、福田昌江 1,000円、鱒淵元成 10,000円、花王ハートポケットクラブ

- 200,000円、畠山由美 5,000円、佐藤由紀子 5,000円、仲村久代 1,000円、チャリティ Corean Cafe 7,580円、君嶋福芳 10,000円、菊池洋勝原画展事務局 5,000円、匿名 30,000円、矢野正広 10,000円、青木秀子 10,000円

- フードバンク：山崎周 1,000円、岡部昇子 3,000円、菊池順子 2,000円、匿名 40,000円、社会福祉法人晃丘会 9,000円

- 若者未来基金：加藤範義 5,000円、伊藤嘉信 6,000円、石田昌義 3,000円

- とちぎコミュニティ基金：石川慎太郎 1,000円、中村絹江 1,000円、ぼぼら募金箱 5,248円

- とちぎコミュニティ基金：花王(株) 147,000円

- 東日本大震災：さとう接骨院 10,420円、東日本ビレッジ 7,374円、コラボレー真岡・利用者協議会一同 3,058円

【フェアトレード製品】
がある
お店を訪ねて⑦

クーリ・ルーージュ

新里街道を宇都宮から日光方面に走り、ろまんちっく村に右折する信号の手前、左側に小さな家が立つ。白壁に赤い窓枠がキュート、林の中に溶け込みそうな佇まいだ。ここが旨いフレンチバスク料理がリーズナブルな価格で食べられる店だ。

しかもロケーションが良い。建物の中からは小さい菜園が見え、その向こうには雑木林。目を遠くにやるとなだらかな山々が重なり、里山が広がる。

室内はフランスのバスク地方の納屋をイメージしたという造り。梁が剥き出しでアンティークの調度品がアットホームな雰囲気を演出している。

オーナーシェフは日本でフランス料理の修行をした後、パリのミツ星レストランを始め、リヨン、ブルゴーニュなどで経験を積んだ。その後スペイン国境のバスク地方に行き、2年間レストランで住み込みで働いた。山沿いの街で冬を越すための保存食をよく使う。豚、羊などを解体して、加工しかめに詰めるなどソーセージ、豚足などを一から作る。それを使った煮込み料理といったものが多い。

フランスの都会で完成度の高い料理を食べてきた彼



だったが、「その時初めておいしいと思った」という。自給自足に近い人間本来の生き方、知恵、自然あふれる土地が生む素材。「バスクでの修業は感動そのもの」と。

「フランス料理」という時、日本食に例えるなら高級割烹料理か。一方日本各地にオリジナルの料理があるように、フランスの地方にも旨いものがある。彼はバスクでの体験を表現したいと思った。東京で成功していたフレンチレストランを閉じて郷里の宇都宮に戻った。

2011年この店をオープン。東京からの客も呼べることを狙って、宿泊施設のあるろまんちっく村の近くに土地を求めた。また宇都宮は養豚農家が多く、地元の生産者から直接材料を仕入れることができる。豚肉は塩漬けから熟成まで加工作業を店で、すべて一人で行う。そのソーセージなどを使った家庭料理が中心だ。

特筆すべきはランチメニュー。前菜は3〜4種類から、主菜は5〜6種類(肉・魚)から選べる。客は選択に迷い、うれしい悲鳴。オーナーシェフは「わざわざ来てもらうので最高のもてなしをしたいから」と言う。

こだわりぬいた素材を使った深みのある旨味を堪能し、満足度はかなり高い。帰りの際にはお土産に焼き菓

子(チーズケーキなど)、自家製パン(土日のみ)、フェアトレードのバスケットやナチュラルハーブ石けんなどが買える。

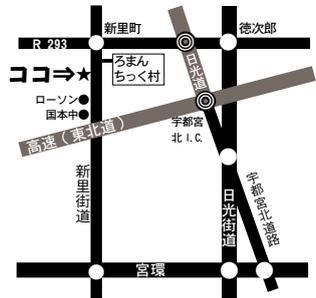
●宇都宮市新里町丙 33-2
●TEL 028-678-8848
●WEB <http://coulis-rouge.com>
●OPEN 11-14時(15時クローズ)、18-21時(オーダーストップ)

●定休：木曜
※予約してから行くことをお勧めします。
※バス-JR宇都宮駅西口よりろまんちっく村行(所要約40分)新里町下車徒歩3分



■フェアトレードとは■

- ・国際産直
- ・適正な価格で取引をすることで途上国の生産者の自立を応援
- ・地球環境と生態系を守る農法で生産
- ・お買い物海外協力になるしくみ



吉田ユリノ (まちなか・せかいネット=とちぎ海外協力NGOセンター)

編集後記 / 今月のV情報、ついに200号です。編集方針にしたがってレイアウトもいくらか変えたつもりですが、どうでしょうか。隔月刊に変わり、編集にも余裕ができました。もう少し来月は変えるつもりです。次号は201号新生V情報スタートとして、キクチヒロカツさんにも登場してもらおうと・・・(矢野)

いつでも
あなたの
側にいる



- ◎ボランティアセンター & NPO支援センター
- ◎フードバンク・困窮者支援
- ◎災害救援
- ◎若者の自立支援
- ◎寄付文化の醸成

■〒320-0027
栃木県宇都宮市塙田 2-5-1
共生ビル 3階
■TEL 028-622-0021
■FAX 028-623-6036
■Vネットに遊びに来てね。
9:30-19:00 日・月休み

ボランティア・NPO・市民活動を応援するとともに、生活困窮者や災害救援など「いまのSOS」に応える本会の活動は、市民の皆様の暖かいお気持ちや、有形無形のお力添えによって成り立っています。「支えています。支えてください」を合言葉に、やり直しができる社会、豊かな栃木作りを目指します。ぜひ、あなたも仲間になりませんか。

■会費(年間)

- ◎支持会員…5,000円
- ◎団体会員…20,000円(1口)
- ◎賛助会員…3,000円

※賛助会員は総会議決権がない会員です。
※「ボランティア情報」が年6回届きます。
※ご寄付には税制優遇があり、寄付額の最大約50%が税金から還付されます。本会は認定NPO法人のため、確定申告で「寄付金控除」が受けられます。他にも相続税の非課税、法人寄付の場合、損金算入限度額の拡大などがあります。

■郵便振替

口座番号/宇都宮 00360-4-31111
加入者名/とちぎボランティアネットワーク

■WEBサイトから…会員、寄付の手続きできます

- ・クレジットカードで寄付もできます。
- ・マンスリーサポーターで月1000円からのご寄付も。

□WEB tochigivnet.com
□メール tvnet1995@ybb.ne.jp